

平成25年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要と目的

平成25年4月、平成25年度全国学力・学習状況調査が、平成21年度以来、4年ぶりに全小学校6年生と中学校3年生を対象に、悉皆調査として実施されました。この調査は、これまでの教育活動や教育施策の成果と課題等を把握・検証し、今後の教育活動に生かすために行なわれるものです。

なお、国の調査実施要領で謳われているとおり、本調査で測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることも踏まえて、調査結果を報告するものです。

2 実施状況

- (1) 調査実施日 平成25年4月24日(水)
- (2) 実施項目 ①教科に関する調査 国語、算数・数学  
主に「知識」に関する問題(A)  
主に「活用」に関する問題(B)  
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- (3) 実施校数 小学校 35校 中学校 19校
- (4) 実施人数 (単位:人)

	国語A・国語B	算数・数学A	算数・数学B	質問紙
小学校6年生	3,725	3,726	3,724	3,722
中学校3年生	3,263	3,263	3,266	3,267

3 市全体の平均正答率一覧表

- (1) 藤沢市立小学校平均正答率 (単位:%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
藤沢市(公立)	59.6	47.6	76.7	58.2
神奈川県(公立)	61.5	49.7	76.5	58.7
全国(公立)	62.7	49.4	77.2	58.4

- (2) 藤沢市立中学校平均正答率 (単位:%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
藤沢市(公立)	77.0	68.9	65.1	42.3
神奈川県(公立)	76.3	68.9	63.8	41.9
全国(公立)	76.4	67.4	63.7	41.5

本市の小学校の平均正答率は、算数Aを除き、神奈川及び全国の公立小学校の平均正答率をやや下回っており、中学校は全ての教科において神奈川及び全国の公立中学校の平均正答率を上回っています。

なお、国立教育政策研究所の報告書には、平均正答率の±5%の範囲内について、大きな差はないと標記されています。

#### 4 教科に関する調査結果の市の概要、課題等の分析、指導改善のポイント

##### (1) 小学校・国語

###### ア 市の概要

国語A（知識に関する問題）では、漢字を読むこと・ことわざの意味を理解すること等の言語における知識・理解については、概ね良好な傾向が見られます。下の学年で習得すべき漢字を書くこと・文の定義を理解すること等の基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に不十分なものが見られます。

国語A・国語B（活用に関する問題）ともに資料を読み取り、分析的に捉えたり関連付けたりしながら、分かったことや自分の考えを書くことについて課題があります。

###### イ 傾向・課題等の分析・指導改善のポイント

	領域	(ア)相当数の児童ができていたもの	(イ)課題が見られたもの	(ウ)指導改善のポイント
1	話すこと・聞くこと	① 相手の立場や状況を感じ取って聞くこと	① スピーチの表現を工夫すること ② 話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言すること	① スピーチの構成や表現を工夫することは、国語科の学習のみならず日常生活においても重要です。自分の立場や結論を明確にした上で全体の構成を工夫するとともに、事実と感想、意見とを整理して話すことができるよう指導することが大切です。 ② 相手の話を十分聞きとることの指導が重要です。その上で、内容の理解、自分の考えとの共通点や相違点、関連して考えたことを整理してまとめるよう指導することが大切です。
2	書くこと		① <u>目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用したり、複数の内容を関連付けたりしながら、自分の考えを書くこと</u> ② 資料を読み取り、全体からわかることを書くこと	① 調査したことを報告する文章を書く場合、調査して分かった事実を関連付けながら、自分の考えを明確に書くことが重要です。そのためには、まず <u>一つ一つの事実に対する自分の考えをもち、編集の目的や意図に応じた自分の考えの中心を明確にしながらか一定の条件にあわせて書くことができるよう指導することが大切です。</u> ② 資料に表された情報を正しく読み取ったり、必要な情報を取り出して記述させたりする指導が大切です。

3	読むこと		<p>① 推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由、それぞれの本や文章の読み方の違いを捉えること</p> <p>② 俳句の情景を捉えること</p>	<p>① 本や文章を読んで、感想や紹介、推薦の文章を書くためには、自分の意図とともに、相手の興味や目的も考慮し、どのような本を取りあげるのか、また取り上げた本の何を主に推薦するのかなどを児童に決めさせる必要があります。読み方としては、登場人物や作品の構造、表現・叙述、視点などの観点に基づき、それらを関係付けて読ませるよう指導するとともに、読み方の工夫などについて他の人とも交流させることが大切です。</p> <p>② 5・7・5の17音から季節や風情、俳句に込められた作者の思いなどを想像したり、響きを感じたりしながら、文語の調子に親しむよう指導することが大切です。</p>
4	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>① 漢字を読むこと・ことわざの意味を理解すること</p> <p>② 接続語のもつ働きを理解すること</p>	<p>① 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと</p> <p>② 漢字を書くこと</p>	<p>① 文の定義や文及び文章の構成については、第1・2学年においては、「文の中における主語と述語との関係に注意すること」、第3・4学年においては、「指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと」、第5・6学年においては、「文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること」をそれぞれ重点的に指導することが大切です。特に5・6学年では、文の構造として単文、重文、複文などがあることを理解できるように指導することが大切です。そのためには、1つの内容を1つの文に簡潔に書かせたり、2つ以上の内容を、必要に応じて1つの文にまとめて書かせたりする指導が考えられます。また、その反対に、2つ以上の内容が含まれた1文を内容ごとに複数の文に分けて書かせたり、箇条書きにさせたりするなど、言語を操作する指導が大切です。</p> <p>② 漢字を日常生活の中で定着させるためには、習得した漢字の部首、点画などの間違いがないかどうか確認するとともに、文や文章の中で果たす漢字の意味を捉えた上で、正しく使用しているかどうかを評価するよう指導することが大切です。</p>

(2) 小学校・算数

ア 市の概要

算数A（知識に関する問題）においては、整数・小数・分数の四則計算はほぼ理解できていますが、台形の面積や1アールについての理解、単位量当たりにおける除法の式の意味を理解する力等に課題があります。

算数B（活用に関する問題）においては、示された情報の中から適切に数値を読み取り、求めるべき内容にあったものを選択し、その理由を記述することなど論理的に考えを表現することに課題があります。

イ 傾向・課題等の分析・指導改善のポイント

	領域	(ア)相当数の児童ができていたもの	(イ)課題が見られたもの	(ウ)指導改善のポイント
1	数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 整数・小数・分数の加法・減法・乗法・除法の計算をすること</li> <li>② 同分母の分数の加法の計算をすること</li> <li>③ 円柱の見取り図と展開図を比べ辺の長さを求める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 示された位までの概数にすること</li> <li>② 3つの買い方から一番安くなる買い方を選択し、その理由について記述すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 概数の学習では、数直線に表わすなどの活動を取り入れ、概数になる数の範囲を捉えるよう指導することが大切です。</li> <li>② 複数の情報が示されている場面では、条件を把握し、条件に基づいて情報を整理できるよう指導することが大切です。</li> </ul>
2	量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選択すること</li> <li>② 曲線部分の長さを測定する際に用いる適切な計器を理解すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <b><u>混み具合を求める除法の式の意味を理解すること</u></b></li> <li>② 1アールの面積と等しい正方形の一辺の長さを理解すること</li> <li>③ 台形の面積の求め方</li> <li>④ 単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <b><u>単位量当たりの大きさを求める式を理解させるためには、図を基に式を読み取る活動を取り入れることが大切です。</u></b>また、二つの数量の対応や変化の様子を明らかにするためには、基準となる表の数値を設定し、数量の関係を表にまとめ、対応や変化の規則性を説明する活動を充実させることが大切です。</li> <li>② 広さの学習では、身近にあるものを用いて実感的に捉えさせることができるよう指導することが大切です。</li> <li>③ 台形の面積を求める公式の意味を理解させるために、二つの合同な台形を組み合わせた平行四辺形を用いて（上底+下底）や÷2の意味を理解させたり、間違っただけをみて、どこが間違っているのかを考えさせる活動を取り入れることが大切です。</li> <li>④ 問題を解決するためには、単位となる大きさをそろえる必要があることを理解させ、順序立てて考え解決の方法の見通しを持たせるように指導することが大切です。</li> </ul>

3	図形	<p>① 円柱について見取図の高さと展開図の側面の辺の長さが対応していることと底面の円周の長さと展開図の側面の辺の長さが対応していることを理解すること</p> <p>② 図に示された分割の仕方とその説明とを対応させること</p>	<p>① 合同な三角形をかくために必要な条件を理解すること</p> <p>② 円柱について、底面の円周の長さと展開図の側面の辺の長さが対応していることを理解すること</p> <p>③ 長方形と台形の分割の仕方を比べて、台形の場合は4等分にならないわけを選択すること</p>	<p>① 合同な図形をかくために必要な条件を理解させるためには、実際に描いたり、作ったりする算数的活動を充実し、条件を見出していくよう指導することが大切です。</p> <p>② 立体図形を見て、その見取り図を書いたり、見取り図を見て、立体図形を選んだりする活動を充実させる必要があります。</p> <p>③ 他の図形についても、等しい面積に分けられるかどうかを考える活動を取り入れ、分けられることが成り立つが否かの結論だけでなく、その理由も説明できるように指導することが大切です。</p>
4	数量関係	<p>① 割合で基準量と比較量の大きさの関係を理解すること</p> <p>② 情報を整理し筋道を立てて考え三つの条件全てに当てはまるものを判断すること</p> <p>③ 棒グラフの最小目盛りの数値を読み取ること</p>	<p>① 示された平均を求める式から、その計算の結果が何を求めているのか理解すること</p> <p>② 示された式を基に、勝ち点の合計を求める計算をし、計算の結果の大小を基に判断すること</p> <p>③ 割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述すること</p>	<p>① 平均を求める目的と求め方の手順を明確にし、それに基づいて立式させるよう指導することが大切です。</p> <p>② 四則の混合した計算の際、その式が何を表しているのかを、具体的な場面と関連付けて捉えることが大切です。式から具体的な場面を確認する場を授業の中で多く設ける必要があります。</p> <p>③ 判断の理由や事実が成り立つ理由を説明するためには、説明の根拠として何が必要になるのかを確認し、説明できるように指導することが大切です。</p>

(3) 中学校・国語

ア. 市の概要

国語A（知識に関する問題）では、「読むこと」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に良好な結果が見られます。日常的な言語活動の中で、基礎的・基本的な知識・技能を適切に使うことに課題があります。

国語B（活用に関する問題）では、文章の構成や表現の特徴を捉えることや、文章の内容を引用し自分の考えを書くことに課題があります。

イ. 傾向・課題等の分析・指導改善のポイント

	領域	(ア)相当数の児童ができていたもの	(イ)課題が見られたもの	(ウ)指導改善のポイント
1	話すこと・聞くこと	① 話し合いの方向を捉えて司会の役割を理解し、果たすこと ② 話すための材料を多様な方法で集めること ③ 理論的な構成や展開を考えて話すこと	① 個々の発言の内容を整理しながら話し合いの方向を捉えて、発言すること	① 具体的な場面を設定して、複数の意見の中から一つに絞り込んだり、意見の長所・短所を整理したり、目的や条件を確認したりして発言するなど、司会の果たす役割を考えさせることが大切です。
2	書くこと	① 段落の役割を考えて文章を構成すること ② 伝えたい事柄を明確にして書くこと	① <b>文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くこと</b> ② 書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に直すこと ③ 文章の内容を引用し、自分の考えを書くこと	①③自分の考えを具体的に書く力を身に付けるために、 <b>本や文章のどの部分に特に興味や関心をもったのかを明確に示した上で、なぜそこに着目したのか、その内容について自分はどのように考えるのかなどを丁寧に書くように指導することが大切です。</b> ② 情報を整理して分かりやすく書く力を身に付けるために、目的や相手に応じて、取り上げる情報、それを示す順番などの観点で書いた文章を読み直し、よりよい文章にするように指導することが大切です。

3	読むこと	<p>① 描写の効果を考え、内容を理解すること</p> <p>② 文脈の中における語句の意味を理解すること</p>	<p>① 興味を持ったことから課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること</p> <p>② 文章の構成や表現の特徴を捉えること</p>	<p>① 文章を読んでものの見方や考え方を広げるには、読んで理解したことの中から興味や関心を広げ、新たな課題を見いだすように読む必要があります。そのためには、文章を読んで理解できたこと、疑問点や関心をもったことなどを整理させることが大切です。課題を解決するために情報を収集する際には、情報を収集する手段の特徴を理解し、自分の課題の解決に適した手段を選ぶよう指導する必要があります。</p> <p>② 目的に応じて必要な情報を収集する際には、文章の形態に応じた構成や展開、表現の特徴などに注意して読むよう指導する必要があります。また、情報を正確に読み取るためには、調べる事柄に関わる語句や文末表現などに着目して、書き手の目的や意図を考えながら読むように指導することも大切です。</p>
4	国語の特質に関する事項 伝統的な言語文化と	<p>① 漢字の行書と楷書との違いを理解して書くこと</p> <p>② 文脈の中で適切な敬語を選択すること</p>	<p>① 比喻を用いた表現について理解すること</p> <p>② 文脈に即して漢字を正しく書いたり、読んだりすること</p> <p>③ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと</p>	<p>① 小学校での学習を踏まえ、文章中の具体的な表現と結び付けながら、比喻や反復などの表現の技法について理解し、その名称とともに整理するように指導することが大切です。</p> <p>②③言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、辞書等を使って、なじみの薄い語句や使用頻度の低いと思われる漢字などを積極的に調べる機会を意図的に設ける必要があります。その上で、調べたことを「話すこと・聞くこと」や「書くこと」などの学習に生かしていくように指導することが大切です。</p>

(4) 中学校・数学

ア. 市の概要

数学A（知識に関する問題）では、概ね基礎的・基本的な知識・技能の理解について、良好な結果が見られます。無解答率は低い傾向があり、分らなくてもやってみようという態度が現れています。

数学B（活用に関する問題）に関しては、数学Aに比べ、全体的に正答率が低く無解答率も高くなっている傾向が見られます。事象を数学的に解釈したり、数学的な表現を用いて説明したりすることに課題があります。

イ 傾向・課題等の分析・指導改善のポイント

	領域	(ア)相当数の児童ができていたもの	(イ)課題が見られたもの	(ウ)指導改善のポイント
1	数と式	① 正の数、負の数の四則計算をすること ② 二元一次方程式などの計算をすること	① 式の持つ意味を理解すること  ② <u>事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明すること</u>	① 正の数と負の数の必要性和意味を理解できるようにするために、実生活の様々な場面における数量やその変化を正の数と負の数を用いて表す活動を取り入れて指導することが大切です。 ② <u>事象を数学的に表現したり、数学的に表現された事象の意味を理解したりするために、具体的な事柄を筋道を立てて、数学的に表現していく活動を取り入れていく</u> 必要があります。また、事柄が成り立つ理由を、見通しを持って説明するために、具体的な数で確かめる活動なども取り入れる必要があります。
2	図形	① 与えられた図形の拡大図をかくこと ② 見取り図、投影図から空間図形を読み取ること	① 作図の根拠となる条件を見つけること ② 回転運動の意味、図形の条件などの理解 ③ 方針に基づいて証明を進めていくことや、証明の新たな方針を立てていくこと	①②作図の根拠となる条件を見つけるには、図形の特徴を的確にとらえ、事柄が成り立つ理由の筋道を立てて理解しておく必要があります。そのため、実際に作図するとき、図形の構成要素を確認していくことが大切です。 ③ 図形の証明については、仮定からわかることが何かを整理し、条件に当てはめていくために、何がわかればよいか着目すべきポイントを考える場面を日常の学習の中に設定していくことが大切です。

3	関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 指定された座標を読み取ること</li> <li>② 与えられた数式に、数値を代入して解を求めること</li> <li>③ 二元一次方程式を表すグラフの特徴をつかむこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 関数が表す事象の読み取ること</li> <li>② 読み取った事象を式の意味に即して解釈し、数学的な表現を用い説明すること</li> <li>③ 関数の表から変化の割合を求めたりすること</li> <li>④ 事象を理想化・単純化し、事柄を数学的にとらえ他の事象との関係を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 様々な事象の中の2つの数量<math>x</math>、<math>y</math>について、<math>y</math>が<math>x</math>の関数であるかどうかを見出すためには、具体的な数を<math>x</math>に当てはめて、<math>y</math>が一意に決まるかどうかを確かめられるように指導していくことが大切です。</li> <li>②③具体的な事象の中から二つの数量を取り出しそれらの変化や対応を調べることを通して、それを関数としてとらえ直すような指導が大切です。</li> <li>④ 日常的な事象を理想化・単純化しその特徴を的確にとらえるために、事象の変化の様子について予測したり、実際のデータの特徴を分析したりすることができるよう指導することが大切です。</li> </ul>
4	資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 平均値の意味についての理解</li> <li>② 確率や、資料の読み取ること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ヒストグラムから相対度数を求めること</li> <li>② 資料の傾向を的確にとらえ数学的に説明したりすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 相対度数の必要性と意味の理解を深められるようにするためには、ある階級の度数が総度数に占める割合を求めて、資料の傾向を読み取る指導をする必要があります。</li> <li>② 目的に応じ資料を分類整理し、資料の傾向をとらえたり整理の仕方を工夫することで資料の傾向をとらえ直したりすることができるように指導することが大切です。</li> </ul>

## 5 児童・生徒質問紙調査に関する調査結果

※児童は「小学生」、生徒は「中学生」を表しています。

### 1 基本的な生活習慣

- (1) 朝食を食べる児童は95%を超え、生徒も95%近くいます。
- (2) 就寝時刻が毎日ほぼ同じ時刻の児童は75%を超え、生徒も70%を超えています。
- (3) 90%近くの児童生徒がほぼ同じ時刻に起床しています。

### 2 自尊意識

- (1) 約90%の児童と約75%の生徒が将来の夢や目標を持ち、前向きに生活を送っている。
- (2) 95%近くの児童生徒が、ものごとを最後までやり遂げたときの達成感を体験しています。
- (3) 自分にはよいところがあると感じている児童生徒は、約70%います。

### 3 生活の中での時間の使い方

- (1) 約75%の児童が午後9時から11時の間に就寝しており、睡眠時間を8時間以上とっている児童も約75%います。65%を超える生徒が午後10時から12時の間に就寝していますが、午前0時以降に就寝する生徒も30%近くいます。睡眠時間については、約90%の生徒が6時間以上ですが、6時間に満たない生徒も約10%います。
- (2) 児童の35%超と生徒の30%超がテレビやビデオ・DVDを1日あたり3時間以上視聴しています。また、55%近くの児童、45%を超える生徒がテレビゲームを1時間以上しています。

(3) 平日に学校以外で勉強する時間については、児童では2時間以上が30%近くいる一方、30分より少ないか全くしないという児童が約20%とばらつきが見られます。また、平日に2時間以上勉強する生徒の割合は45%を超えています。

(4) 休日に4時間以上勉強する児童の割合は約10%いますが、全くしないという児童の割合も15%を超えています。家庭等で1時間以上勉強する児童の割合と1時間に満たないか全くしない児童の割合はほぼ半々で、ほとんどしない児童の割合が若干上回っています。休日に3時間以上勉強する生徒の割合も20%を超えています。全くしない生徒も15%を超えています。

(5) 約60%の児童と70%を超える生徒が学習塾(家庭教師を含む)で勉強しています。

(6) 児童では60%近く、また50%を超える生徒が日ごろから読書をしています。なお、図書館に行っている児童は65%近く、生徒では40%近くいます。

### 4 家庭でのコミュニケーション

(1) 90%近くの児童と80%近くの生徒が家の人と一緒に夕食を食べております。また、80%近くの児童と65%近くの生徒が学校での出来事を家族と話しています。

(2) 80%以上の児童と60%以上の生徒が家の手伝いをしています。

## 5 家庭での学習状況

- (1) 95%以上の児童と80%以上の生徒が家で学校の宿題を行っていますが、家庭で自分から計画を立てて勉強しているという児童は約60%で、中学校では40%と少なくなっています。

## 6 学校生活について

- (1) 児童では95%以上、生徒では95%近くが学校で友達に会うのは楽しいと感じています。

## 7 社会への関心・地域への愛着

- (1) 約60%の児童と50%を超える生徒が新聞やテレビのニュースを通して知る社会の出来事に関心を持っています。また、約55%の児童と、約35%の生徒が地域の行事に参加しています。地域行事への参加については、児童より生徒の方が少ない傾向にあります。

## 8 道徳性（規範意識・礼儀・思いやり）

- (1) 90%以上の児童生徒が、人の気持ちがわかる人間、人の役に立つ人間になりたいと思っており、学校の規則や友達との約束を守ると答えています。
- (2) いじめについては、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を含めると、児童生徒の90%以上が、どんな理由があってもいけないことだと考えています。
- (3) 携帯電話やスマートフォンの所持率は児童が約55%、生徒は約80%います。また、所持している児童生徒のうち、5%の児童と20%程度の生徒が使用にあたっての約束を守っていないと答えています。

## 9 学習に対する関心・意欲・態度

- (1) 普段の授業で本やインターネットを使ってグループで調べる活動をよく行っていると思う児童生徒の割合は、児童では約50%、生徒では約42%となっています。
- (2) 60%程度の児童生徒が、原稿用紙2～3枚の文章を書くのは難しいと感じており、また、自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることを難しいと思っています。
- (3) 国語の勉強については、半数以上の児童生徒が好きであると答えています。また、85%以上の児童生徒が国語の勉強は大切であり、80%前後の児童生徒が将来社会に出たときに役に立つと考えています。
- (4) 70%近くの児童生徒が「読書は好きである」と答えています。
- (5) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている児童生徒は、小学校で70%近く、中学校で60%以上います。
- (6) 算数・数学の勉強については、半数以上の児童生徒が好きであると答え、75%以上の児童と、70%近くの生徒がよくわかると答えています。また90%以上の児童と70%以上の生徒が数学の勉強は大切と考えています。
- (7) 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えている児童は80%近く、生徒は70%近くいます。小学校では「算数の授業で新しい問題を解いてみたい」中学校では「数学ができるようになりたい」と

相当数の児童生徒が答え、問題を解く等の学習活動に積極的に取り組んでいます。一方、「社会に出たときに役に立つ」という答えは、特に中学校で減少しています。

## 6 今後の教育活動に向けて

### 1 学校教育全般

今回の調査結果から、国語においては、基礎的・基本的な知識・技能の定着が不十分であることと、その知識・技能を日常生活の中で適切に使うこと、また、自分の考えや伝えたい事柄を明確にして書くことにも課題が見られました。

算数・数学においては、計算など基礎的・基本的な知識・技能については理解が見られましたが、事象を論理的に考えたり数学的な表現を用いて説明したりすることに課題が見られました。

今後も、基礎的・基本的な知識技能の定着を図るとともに、児童生徒が習得した知識や技能を活用して、主体的に課題を追究したり解決したりする力を育むことが必要です。そのためには、国語科を中心として各教科の指導の中で、言語活動の充実を図り、児童生徒が多面的多角的な視点を持って考え、表現していく場を意図的に設定し、各教科の学びを充実させていくことが大切です。

各学校では、学校教育ふじさわビジョンに示されている「自己の知、状況の知、かかわりの知」を意識し、子どもたちが自己肯定感を持ち、自分が置かれた状況や人とのかかわりの中で、ともに育っていくことができるように、教育課程全般を通して引き続きさまざまな指導方法の工夫を行っていくことが大切であると言えます。

### 2 個の確立と家庭との連携

個の確立を目指すために、学校、家庭では食事・睡眠等の基本的な生活習慣の形成を図る必要があります。また、目標を設定し、それを達成することを通して自尊感情を育てていくとともに、規範意識や他者に対する思いやりの心を育てることを重要視し、優れた面をさらに伸ばしていく必要があります。一方、支援を必要とする児童生徒については、家庭と地域、学校が連携・協力して改善を図っていくことが必要です。

また、テレビ、DVD、ゲーム、インターネット、携帯電話、スマートフォンなどの情報機器の発達にともない、新たな課題が生じています。特に、携帯電話やスマートフォンについては、大人の知らない中で、いじめや犯罪行為につながる危険性が高く、児童生徒のみならず、教員・保護者への啓発とともに、学校と家庭が連携を図りながら望ましい方向を探ることがより必要です。

### 3 他者とのかかわり

国全体の調査結果と同様、藤沢市においても、地域による学校支援活動が進展し、その効果を見て取ることができます。地域と連携することによって、児童生徒が自分とは異なる「ひと」「もの」「こと」との関係性の中で、学ぶことの素晴らしさを実感できるような学習や、豊かな自然環境を生かした体験活動を取り入れた授業を展開することが大切です。

さらに、学校と家庭、地域が協力し合い、つながりをより深めていくことで、一般的な「知識」を身に付けるだけでな

く、生きて働く知識としての「知」を育むことができる教育活動を引き続き推進していくことが必要です。

また、地域に生きる子どもたちが、地域の一員であることを自覚し、地域への関心を高めるために、学校・家庭・地域が連携して望ましい方向性を探ることが重要です。

## 7 今後の取組

教育委員会では、今年度の全国学力・学習状況調査の藤沢市の結果及び傾向及び課題等の分析、指導改善のポイントについて、各学校に情報提供するとともに、市教育委員会のホームページで公開していきます。

各学校においては、調査結果の分析・検証結果を踏まえ、指導計画等に反映させ、課題に応じた学習指導を適切に行うなど、授業改善に役立てるとともに、その状況を保護者に伝え、家庭と連携しながら学習習慣の確立や生活習慣の改善に向けた取り組みへとつなげていきます。

また、教育委員会としては、今年度の調査結果を踏まえ、各学校が教育課程や指導方法の工夫と改善を行っていくことができるよう、教育施策の充実を図るとともに、経験者研修や指導主事の学校訪問において教員に対して直接指導していきます。

## 【児童・生徒質問紙】質問項目と9つの柱

### 1 基本的な生活習慣

- (1) 朝食を毎日食べている。
- (2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- (3) 毎日、同じくらいの時刻に起きている。

### 2 自尊意識

- (4) ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。
- (5) 難しいことでも、失敗を恐れず挑戦している。
- (6) 自分には、よいところがあると思う。
- (7) 将来の夢や目標を持っている。

### 3 生活の中での時間の使い方

- (8) 普段（月曜日から金曜日）、何時ごろに起きますか。
- (9) 普段（月曜日から金曜日）、何時ごろに寝ますか。
- (10) 普段（月曜日から金曜日）、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか。
- (11) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。（テレビゲーム除く）
- (12) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む）をしますか。
- (13) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾や家庭教師含む）
- (14) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾や家庭教師含む）
- (15) 学習塾（家庭教師含む）で勉強をしていますか。
- (16) 土曜日の午前中は、何をして過ごすことが多いですか。
- (17) 土曜日の午後は、何をして過ごすことが多いですか。
- (18) 家や図書館で、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌除く）
- (19) 本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌除く）

### 4 家庭でのコミュニケーション

- (20) 家の人（兄弟姉妹除く）と普段（月曜日から金曜日）、夕食を一緒に食べている。
- (21) 家の人（兄弟姉妹除く）と学校での出来事について話をしている。
- (22) 家の手伝いをしている。
- (23) 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている。

## **5** 家庭での学習状況

- あなたは、家で次のようなことをしていますか。
- (24) 自分で計画を立てて勉強をしている。
  - (25) 学校の宿題をしている。
  - (26) 学校の授業の予習をしている。
  - (27) 学校の授業の復習をしている。

## **6** 学校生活について

- あなたは、学校生活についてどのように思っていますか。
- (28) 学校に行くのは楽しい。
  - (29) 友達に会うのは楽しい。

## **7** 社会への関心・地域への愛着

- (30) 今住んでいる地域の行事に参加している。
- (31) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- (32) 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。

## **8** 道徳性（規範意識・礼儀・思いやり）

- (33) 学校のきまり〈規則〉を守っている。
- (34) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。
- (35) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- (36) 人の役に立つ人間になりたいと思う。

## **9** 学習に対する関心・意欲・態度

- (37) 普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思う。
- (38) 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。
- (39) 普段の授業では、学級の友達〈生徒〉との間で話し合う活動をよく行っていると思う。
- (40) 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのは難しいと思う。
- (41) 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う。
- (42) 国語の勉強は好きだ。
- (43) 国語の勉強は大切だと思う。
- (44) 国語の授業の内容はよく分かる。
- (45) 読書は好きだ。
- (46) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- (47) 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。
- (48) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫

している。

- (49) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。
- (50) 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいる。
- (51) <小学校>今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。  
<中学校>今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか。
- (52) 算数〈数学〉の勉強は好きだ。
- (53) 算数〈数学〉の勉強は大切だと思う。
- (54) 算数〈数学〉の授業の内容はよく分かる。
- (55) <小学校>算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたい。  
<中学校>数学ができるようになりたい。
- (56) 算数〈数学〉の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- (57) 算数〈数学〉の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- (58) 算数〈数学〉の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- (59) 算数〈数学〉の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。
- (60) 算数〈数学〉の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ〈根拠〉を理解するようになっている。
- (61) 算数〈数学〉の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
- (62) <小学校>今回の算数の問題について、言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題がありましたが、どのように解答したか。  
<中学校>今回の数学の問題について、解答を言葉や式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力したか。